

「タンチョウは国立公園がお好き？」 山を越えるタンチョウの話

4月21日、ふるさと情報館で「むらのタンチョウにかかわる報告会」が開催されました。タンチョウと共生するむらづくり推進会議の進捗と、春の農業被害対策(タンチョウの追払い)や鶴見台で行なわれた普及啓発活動と調査の成果などが報告されました。参加者からの質問や意見も多く、実りある報告会でした。

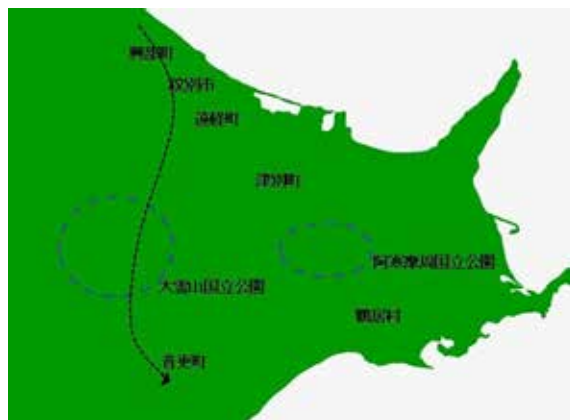
この報告会の冒頭の挨拶で、村上教育長が「この春、美瑛川(美瑛町)でタンチョウが確認されたとニュースで知った。タンチョウは大雪山を越えたのか? そう考えると、ちょっと感動した」と発言されました。実は昨冬、北海道の屋根と言われる大雪山系の東の外れ、沼の原湿原上空を通るコースを、最大高度1736m、最速74kmで飛行したタンチョウがいるのです。2021年11月に道北で標識され鶴居で越冬した「429」は、2022年10月に道北で再捕獲され発信機を装着されました。その「429」が、2023年1月27日にオホーツク海側の興部町を出発し、上記のルートでその日のうちに十勝の音更町に移動しました。

村上教育長の言うところの大雪山越えは、多分、美瑛から鶴居まで一直線のイメージだと思います。十勝連峰を縦断するそのルートを想像し感動している村上教育長に張り合うのは気が引けますが、昨冬の「429」のGPS情報を落とし込んだ地図を見た時の私の感動は、村上教育長に負けてはいない気がします(笑)。

道北では2002年にタンチョウが定着し、2004年から繁殖も始めました。道北で夏を過ごすタンチョウは、鶴居村で越冬しているだろうと言われていて、実際、2021年の秋に道北豊富町で標識した「426」と「429」が、その冬に鶴居村に飛来し越冬しました。ただ、同時期に標識された「426」の妻子の「427」と「428」が、鶴居で見られることはありませんでした。その後の記録が全く無いことから死んでしまったと考えられます。ちなみに2021年度に鶴居で越冬した標識鳥「426」には、発信機も付けられたので、道北から鶴居までの移動ルートも分かりました。標識をした豊富町から遠軽町付近までは海岸沿いを南下し、その後は鶴居までほぼ一直線。阿寒湖上空を飛行して鶴居村に飛来したそうです。阿寒湖と言いつつ大雪山と言いつつ、2021年度も2022年度も道北のタンチョウは国立公園上空を飛行して越冬地に移動しています。国立公園はタンチョウにとっても風光明媚なのかもしれないですね。



「426」の移動ルート(2021年12月24日・25日)



「429」の移動ルート(2023年1月27日)